

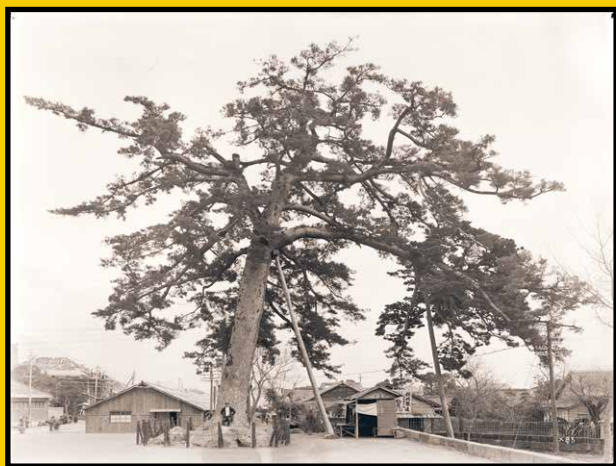
# 写真展 百年の記憶 ウィルソンの見た鹿児島島の自然



鹿児島市城山から見た大正大噴火2ヶ月後の桜島 1914年3月15日撮影

「もし写真や標本で記録を残さなかったら、100年後にはその多くは完全に消えてなくなるだろう」  
アーネスト・ヘンリー・ウィルソン

“If we do not get such records of them in the shape of photographs and specimens,  
a hundred years hence many will have disappeared entirely.” -Ernest Henry Wilson-



照国神社のクロマツ 左下は県立興業館(現考古資料館) 1914年3月3日撮影

屋久島のウィルソン株の発見者ウィルソンは、1914年(大正3年)、おりしも桜島大正大噴火の年に鹿児島を訪れ、1917年の2回目の訪日と合わせて750余枚の写真をハーバード大学に残した。屋久島、桜島、霧島、始良、川内などで撮影された写真が100年後の今、私たちに語りかけるのは…。

100年の鹿児島の変遷をたどる  
同アングルから撮影した現在写真と比較展示

ウィルソン写真提供/ハーバード大学  
©President and Fellows of Harvard College Arnold Arboretum Archive  
現在写真撮影/川越保光 日下田紀三 資料提供/古居智子

## 関連行事

### ■屋久島研究講座・博物館講演会

10/17(土)14:00～「ウィルソンの写真が語る人と自然」

講師：古居智子(作家) 寺田仁志(当館学芸主事)

於 県立図書館大研修室

### ■科学教室 ウィルソンと歩こう

9/20(日)10:00～ 「殿様が愛した庭園探訪」 於 仙巖園

11/15(日)10:00～ 「城山自然ウォッチング」 於 鹿児島市城山

### ■ミュージアムトーク(14:00～写真展会場にて開催)

9/5(土), 9/20(日), 11/15(日) ほか

開催期間：平成27年9月5日(土)～平成28年2月28日(日)

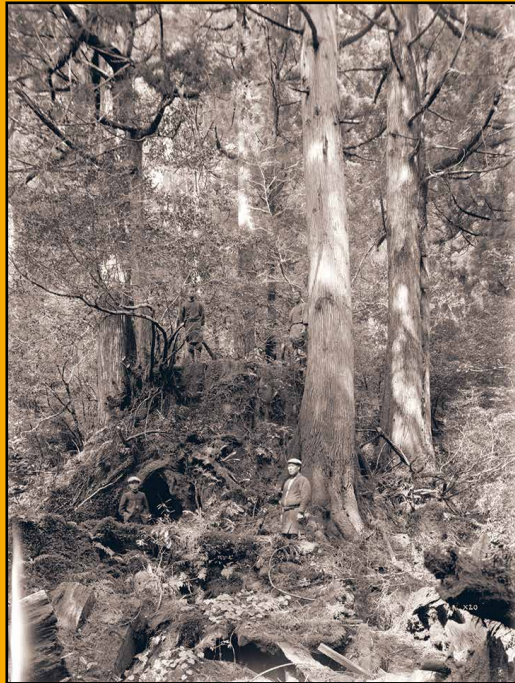
会場：鹿児島県立博物館別館

宝山ホール4階 化石展示室

主催：鹿児島県立博物館 特別協力：古居智子(作家)

後援：ハーバード大学アーノルド樹木園

公益財団法人屋久島環境文化財団、カメイ教育振興財団  
KTS鹿児島テレビ、南日本新聞社、始良市、鹿児島市、霧島市、  
薩摩川内市、屋久島町および各市町教育委員会、仙巖園、  
NPO法人屋久島エコ・フェスタ



屋久島 ウィルソン株 1914年2月22日撮影

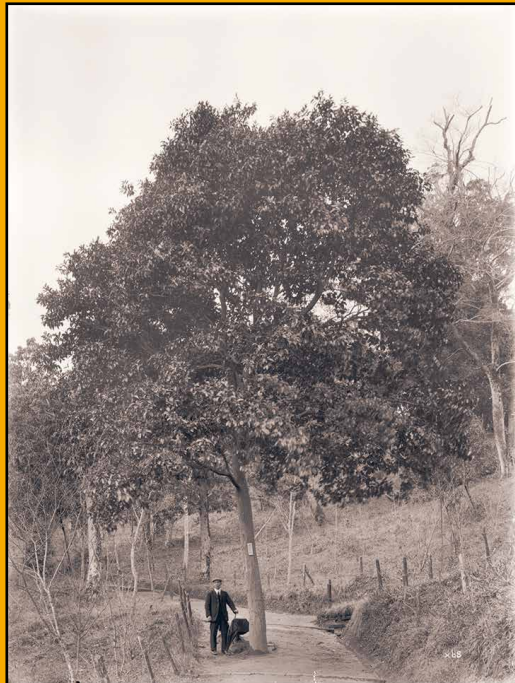
株に立つ地元案内人の子孫にも  
ウィルソンの言葉は伝わっている。



現在写真

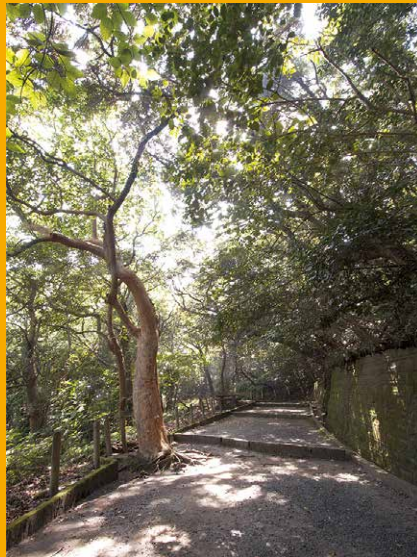


始良市蒲生 大楠 1914年3月4日撮影



鹿児島市城山 バクチノキ 1914年3月2日撮影

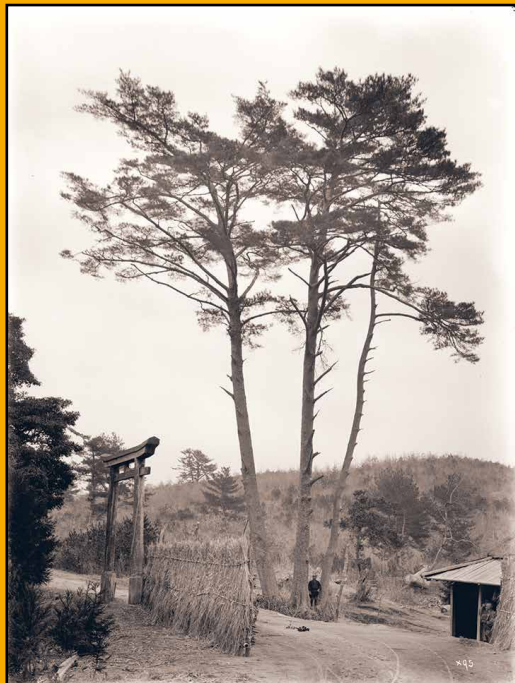
小さなバクチノキは、周辺から  
押されながらも今も生きている。



現在写真



薩摩川内市藤川天神 クロマツと臥龍梅  
1914年3月14日撮影



霧島市高千穂河原 3本のアカマツと鳥居 1914年3月6日撮影

松は枯れてしまったが、  
背後の山は低木林から高木  
のアカマツ林に変わった。



現在写真



桜島小池 大正噴火によって破壊された集落  
1914年3月15日撮影